

P11a **AKARI 衛星による星形成領域の赤外深撮像観測:1**

佐藤八重子、田村元秀、上野宗孝、神鳥亮、中島康、片坐宏一、岡本美子、AKARI 星形成チーム

星形成領域 GGD12-15 は比較的近距离 ( $\sim 1$  kpc) にある中質量星形成領域で、過去の観測から、HII 領域や水メーザー、CO アウトフロー、多数の近赤外線源や電波源が見つかっており、星形成活動が活発な領域である。南アフリカにある IRSF/SIRPOL による広域近赤外線偏光観測からは、JHKs で 288 天体検出され、20 天体に赤外反射星雲が伴っていることがわかった。

上記領域に対して AKARI 衛星による観測を AFSAS/ATLAS プロジェクトの一環として行い、データ解析を行なった。AKARI/IRC は、視野 10 分角という広視野を持ち、 $3\sim 24\ \mu\text{m}$  という近赤外線から中間赤外線までの波長の観測を行うことができる。

今回は、4 波長 ( $3, 4, 7, 11\ \mu\text{m}$ ) のデータ解析を行なった。近赤外線では 150 天体以上、中間赤外線でも 50 天体以上の測光を行うことができた。これらの天体に対し、2 色図や色等級図を用いて YSOs 分類を行なった。

本講演では、IRSF/SIRPOL で観測された JHKs のデータと比較を加え、 $1\sim 11\ \mu\text{m}$  という広い波長域のデータを用い、この領域における星形成と初期質量関数の特徴を議論する。